

大学教育学会2017年度課題研究集会
課題研究シンポジウムI「アクティブラーニングの効果検証」

アクティブラーニングの効果に寄与する要因の質的検討
—アクティブラーニング型授業を展開する教員へのインタビュー調査から—

大阪産業大学
山田嘉徳

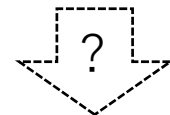
本報告の趣旨

- 本報告ではAL型授業の効果と授業づくりに寄与する知見を確かなものへとしていくため、プレポスト調査（AL調査）の結果を質的に補いながら、AL型授業で起きていること（ALの効果）の内実を検討する。
- AL型授業を展開する教員の授業づくりについて言及するインタビュー時の教員の語りを題材に、ALの効果に寄与する要因を質的に検討した結果を分析過程に沿って報告する。

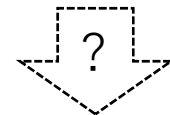
AL型授業で起きていること —プレポスト調査の結果を踏まえると—



○AL型授業は「授業外で深く突き詰める学習」を促進



○AL型授業は「外化」を行うようになる



○AL型授業は「深い学び」に寄与する

全体として、AL型授業は、授業外で深く突き詰める学習が行われ、外化、深い学びに寄与している可能性がある。この流れにおいて、一定の授業外学習（45分程度）が行われていて、AL型授業で起きていることを支えている

1. 調査の方法

調査対象

- AL調査に協力頂いた授業担当教員**15**名
- AP採択校を中心に、授業形態、履修形式、受講者数の規模、分野に偏りがないように**7**大学、**24**クラスを選定
- クラスの内訳：
 - 講義中心**14**、演習中心**10**
 - 教養、家政、教育、保健、経営、心理、理学、工学、語学、医学の**9**分野
 - 必修**11**、選択**13**

調査対象の一覧

大学	授業	科目特性・授業区分	対象
A	授業1	教養系演習科目(必修)	a,b
	授業2	家政系講義科目(選択)	b
	授業3	家政系講義科目(選択)	
	授業4	家政系実習科目(選択)	c
	授業5	家政系講義科目(選択)	d
B	授業6	教養系講義科目(選択)	e
	授業7	教養系講義科目(選択)	
C	授業8	教育学系講義科目(必修)	f
	授業9	教育学系講義科目(必修)	
D	授業10	保健学系講義科目(必修)	g
	授業11	保健学系講義科目(必修)	h
	授業12	保健学系講義科目(必修)	i

大学	授業	科目特性・授業区分	対象
E	授業13	経営学系講義科目(必修)	j
	授業14	心理学系講義科目(選択)	k
	授業15	心理学系講義科目(必修)	
F	授業16	理学系講義科目(必修)	l
	授業17	工学系演習科目(必修)	m
	授業18	語学系演習科目(選択)	n
	授業19	語学系演習科目(選択)	
	授業20	語学系演習科目(選択)	
	授業21	語学系演習科目(選択)	
	授業22	語学系演習科目(選択)	
	授業23	語学系演習科目(選択)	
G	授業24	医学系演習科目(必修)	o

注) A-E大学は2015年度、F-G大学は2016年度にインタビューを実施

調査の概要と手続き

- 授業担当教員に授業単位で30分（±10分程度）を目安とする半構造化インタビュー
 - AL調査のインタビュー担当者（報告者）が実施
 - 調査期間は2016年1月～2017年1月
1. AL調査の趣旨の説明、録音の同意
 2. AL調査結果の資料を提示（適宜、シラバス等の授業関連資料を参照）
 3. 当該授業のねらいを確認した後、尺度毎の得点（平均値）の絶対値の高低に注目しつつ、得点が高まったり、高まらなかったりする要因について中心に尋ねる

注) ただし調査上の制約から一部のフィールドでは、フォーカス・グループ・インタビューの形式がとられたり（D大学）、スカイプを用いたインタビュー形式で行われたりした（教員m）。また授業担当教員の時間の制約から同一科目のものはまとめてインタビューを行う場合もあった（教員n）。

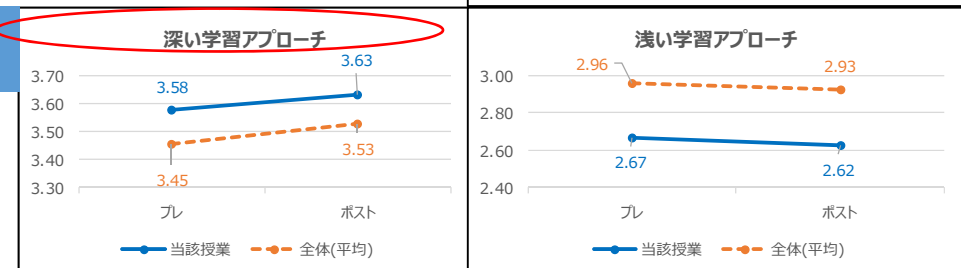
調査の観点 (AL調査に対応)

1. 学習アプローチ (河井・溝上, 2012)
2. 学習動機 (浅野, 2002)
3. 予習の仕方 (授業外学習に対する姿勢)
4. 授業における他者観
5. AL尺度 (外化)
6. コンピテンシー (技能・態度)
7. 一般的な授業との比較

各変数の尺度得点



学習アプローチの推移



2016年度後期AL調査フィードバックシート
(一部抜粋)

2. 分析

分析の手続き

- 各尺度のプレポスト間の得点変化に注目し、インタビューちくご記録から調査目的に関連する記述群を拾い上げ、それらの記述に対し、質的コード化の技法を援用し、適宜ラベルを生成する。
- 特にAL型授業で想定される学習の流れ（紺田, 2016）を踏まえ、いかに授業づくりを行っていたかという観点からラベル（【 】で表記）を用いて分析的に記述する。
- データの典型性を担保するため、本分析で扱われるケースはすべてプレポスト間で得点が少なくとも0.1ポイント以上（有意に）高まったものを取り上げる。

分析の視点

三保報告と関連
(1~3)



OAL型授業は「授業外で深く突き詰める学習」を促進



OAL型授業は「外化」を行うようになる



抑制する要因
(授業内学習状況)



OAL型授業は「深い学び」に寄与する



抑制する要因
(授業外学習状況)

山田邦雅報告と関連
(4)

長澤報告と関連
(5)

1. 「授業外で深く突き詰める学習」がなぜうまく進んだのか

- AL型授業を展開する教員は授業全体への能動的な関与という形で学生を授業活動に誘うべく、学生の<学習をめぐる情意面と志向>に十分配慮していた。
- 教員は【当事者意識を強調する形での学びのねらいの提示】を授業全体を通して折に触れて行い、予め学んでおくことへ向けた【当事者意識の賦活】を、教授学習上の工夫を通じて促そうと試みていた。また、実質的な予習を伴うAL効果の寄与を下支えしているのは何より、学生自身の【現場の学びの文脈に触れて生起する情動の喚起】であり、深い学びにつながるAL型授業には【予め学んでおかないと不安】だとする学生の側の意識と併せて、予習行為の実感のしやすさが、十分に必要だと捉えていた。

OG大学授業24, 医学系演習科目(必修), o先生

(予習得点の高まり<2.09→2.36, 0.27>について)

ちやうしアつす脈見医説うなにい
 ちた強、るで文かを一もがいをう災はいな
 っ勉はすんでい本テで分てマよ震つつ
 配らてりなっい基ン、自っく響えい
 ね、うかした業るらるぜかで感テ響えい
 てもご分とん授なたきレす上共な例か、シ
 で皆ア目的読のにしてブでだ、ん線。と
 かをフのた共医どんそな波のいのすーベ
 なんか資料業い学、はや、やをる分らでメチ
 な資ア授書全らにちで、ちく多彼んのモ
 き参考スのあうかるをの向持て…うう情のた。
 と参らこまいますせ接る方気…うう情のた。
 したプ…、てでさ面あ一の入なかとの彼
 出きかすけける付医とイ相一事、何だんは
 を分でつしな…こエの夕大て、んさの
 課題し自かに欲に身てうウそくくしあ患いう
 る予習りつけ医のまてワは、アごと分のう
 あ予よたキらうえっ、のうの素材多そそ
 ね、のち出キにらうえっ、のうの素材多そそ
 すが勢クを、そ常ほけてっ念のつ療つ
 です、ね、姿ツのも、非だっる概る1医使
 ば、と、力でいれの中、なっつョ面接すな
 例え、んとかいミウどで、なっつョ面接すな

【現場の学びの文脈に触れて生起する情動の喚起】

2. 「外化」がなぜ行われるようになったか

- AL型授業を展開する教員は多様な学生に配慮した形で<外化の基盤形成>につとめていた。
- 教員は授業という場を介した学生との【心理的距離】を捉えてそれを十分に活かしつつ、【外化の維持を支援する規則の設定】について、予め外化の苦手な学生に対して互恵的な援助が行われるように授業初期の段階で半ば規範化していた。AL効果の寄与という点では特に同時に、【集団に生じる個人差に対応した形での外化の支援】によって、【外化に対する不安に配慮を示した形で学習の目標を段階的に提示】していた。外化対象も必要に応じて異なるように設計し、【内化と外化が往還する学習サイクル】の枠組みのなかに外化のプロセスを適切に埋め込み、クラス全体としての【パフォーマンスの水準の引き上げ】を行っていく視点と方向性を強調して捉えていた。

OC大学授業9, 語学系演習科目(選択), f先生

(外化得点の高まり<2.30→2.44, 0.14>について)
ええとね、前期は、メインはあの、もうミニレポートの作成なんですね。で、大体20分使ってと。ほぼ毎回書かせていくと。それプラスしてグループでディスカッションをして、そのまあ一応報告を、つまりこう、ぱっと立って、1人か2人で立って1分くらいでやってもらうということをして…1人持ち時間1分で話せ、っていうので、1分、チーンチーンとやりながらやると、必ずその人は1分話さなきゃいけないですから。それでちょっと慣らし運転というか、それはありますね。その時に、書いたものは見ちゃいけない、ふせろ、とか。で、話が止まりそうになったらどんどん質問してあげなさいって、必ず1分話し続けるのがルールですっていうふうにやると。

【外化の維持を支援する規則の設定】

3. 「深い学び」がなされたのはなぜか

- AL型授業を展開する教員は＜知を深める構えの形成＝レディネス＞を前提に＜学習方略の効果的な多岐化＞を図り、多様な学生の学習状況の複雑さに十分に応じようとしていた。
- 【深く学習するための構えの形成】が前提としてあることが重要だと強調されていた。教員は【内化の質を保証する課題設定】を行い、【学習成果を段階的に提示する可視化】のやり方に十分な工夫を凝らしていた。具体的には学習状況の差異としての【ギャップ】に着目し、ギャップをリソースとして活用すべく【模倣と相互教授】を展開したり、【理論知を体験から学ばせ】たりするなどの工夫を行っていた。結果として学生自身が【学習の目標を達成する手立てとして有効な学習方略を選択的に使用】できるようになることが重要と捉えていた。

OE大学授業13, 経営学系講義科目(必修), j先生

(「深い学び」得点の高まり<3.50→3.65, 0.15>について)

もともとグループ演習という形で授業を2009年度に作った、で当時、まだPBLは全国的にも文系の学部もなかったんですけど、でPBLに問わず、自分たちで課題をみつけてやる、それをはじめたいんですね…(中略)…浅い課題をする子と、深い課題をする子と、いろいろ、まあ実は教員の差かもしれないんですけど、で、実は課題の偏りに差があるのではないかということになって、…1年生の基礎ゼミではLTD (Learning Trough Discussion: 話し合い学習法) をしっかりやってるので、その分ちゃんと、授業との関連をつけようとか社会とのつながりをつけようとかってことで、しなごらちゃん(資料を)読み込むこともできて、違ってきている結果かもしれない。

【深く学習するための構えの形成】

OC大学授業10, 教育学系講義科目(必修), g先生

(「深い学び」得点の高まり<3.36→3.69, 0.33>について)

ク紹介部分...
ピッカ部分...
子。この部分...
る面これをよ...
てれそさをよ...
っこれと化こ...
や、と、化こ...
を、と、化こ...
方、げ見思...
い、に、あ...
使、体、に...
い、全、全...
白、全、全...
面、少、に...
は、全、全...
の、き、全...
いて、て...
多、し、て...
と、プ、て...
わり、ア、...
わ、ア、介...
ル、の、違...
は、す、違...
達、い、が...
が、そ、面

【学習成果を段階的に提示する可視化】

4. (AL型授業であるにも関わらず) 「外化」が抑えられたのはなぜか

- 全体を通じて、外化が促されないので状況 < = 外化の非促進の文脈 > に注目し、【外化そのものの機会頻度の低さ】や授業の困難さ【育成されるべき能力との関係由来する外化自体が主たる要因として挙げられていた。
- 学生側の < 学習への関与の仕方 > に関係するものとして、【技能の習得の行方】や【他者に教えた】が言及されていた。
- また < 教授学習の結果【内化の未達成(未内化)】が割合として【過度な理解の未関連】として挙げられていた。
- 教授学習の教授技法的側面として、AL活動の沈滞化を助長する【外化手法の平板化】が寄与している可能性が挙げられていた。

OF大学授業17, 工学系演習科目(必修), m先生

(「外化」得点の高まらなさ<2.16→1.88, -0.28>について)

(空間把握力を育成すること、をねらいとする授業では) たぶん、
あの一はつきり空間認識してと…正解は書けるけど、何でそ
うなんだっていうの、力の学の問題とか数学の問題だっただ、別
すね。あの、着けば、式の展開でいけるじゃないですか。で、あの
だと行き着く感じが「だっつていうのは、分かってあの一者
図形がこするとぶん化つての教えてつて、言っちゃう授業17のやっつは、僕自身、教える側の立場
になれれば、たぶん学つての教えてつて、言っちゃう授業17のやっつは、僕自身、教える側の立場
ら、何でこの図面見て書くか、授業17のやっつは、僕自身、教える側の立場
ん、それを真側がね…しつて説明できるほど、自分で身に付いたという意識が無い
教えやすくなるよ、ね。説明できるほど、自分で身に付いたという意識が無い
うに他者に説明できるほど、自分で身に付いたという意識が無い
んでしょね。

【育成されるべき能力との関係に由来する外化自体の困難さ】

5. (AL型授業内での「深い学び」の要諦となる) 授業外での学習が抑えられたのはなぜか

- 由上各
 自た重
 のしのみり
 動識と除語
 のをる
 活意こをの
 グ>す習た)
 ニンス保予
 ーランをで
 ブラバリ查が
 ーのま調
 ブラ全体深
 ティ全の伸
 ク習題の
 ア学習課
 るくの教
 めし、外
 を目業摘
 性を授指
 動に注
 能度で、
 性を度尺

今この目標は授業外学習時間が2時間。理解度が5段階
 評価で4。アクティブラーニングというか動的学習
 が4で質のよさね。でもまだ、授業外学習時間がまだ1時
 間そこそこ。能动性を高めるアクティブラーニングを
 やっばり減らさないと。僕、今回これ失敗したんで
 学習時間が減らさないと。今、スマホあたりするんで…
 かしちゃうみたい。今、スマホあたりするんで…
 だから、課題を深めないといけないかなって。その
 宿題の出し方。バランスよくやらないとアクティ
 ラーニングでは。

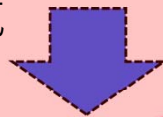
3.分析のまとめと今後の課題

AL型授業で起きていること その背景に存在する要因の検討

学習をめぐる情意面と志向



○AL型授業は「授業外で深く突き詰める学習」を促進
外化の基礎形成



○AL型授業は「外化」を行うようになる

知を深める構えの形成



学習方略の効果的な多岐化

○AL型授業は「深い学び」に寄与する

外化の非促進の文脈（授業内）
学習への関与の仕方 教授学習デザイン

学習全体のバランス（授業外）

今後の課題

—授業研究としてのAL型授業の効果検討に向けて—

- ALは傘概念であり、単一の手法やアプローチではないため、ALに分類される特定の手法やアプローチの効果検証は当面も検討すべき課題
- 授業づくりを志向する教員の授業観を踏まえ、学習の射程・成果と学習プロセスの流れとを連動させるかたちでAL型授業の効果をみる議論
- AL型授業に対する学生の自由記述調査の結果と突き合わせた形でAL型授業の有する授業特性の個別的な課題検討